

BFS

DX FOR FOOD SAFETY

DX戦略・推進方針

～デジタルの力で「食と商品の安心」を守り続ける～

デジタル技術を積極的に活用し、食と商品の「安心」と新たな価値を社会に届けることを実現する

経営・業務・人材・IT・ガバナンスの一体改革

株式会社BMLフード・サイエンス



検査・品質管理の総合コンサルティング企業

株式会社 **BML**フード・サイエンス

経営理念・使命とDXビジョン

私たちの目指す姿と、DXの位置付け

経営理念（会社ビジョン）

- 社員みんなの力を合わせ、働きがい・やりがいのある職場づくりをめざそう
- 食と商品に関する消費者の安全・安心に貢献しよう
- 食品衛生業界で信頼され選ばれるNo1企業をめざそう

当社の使命

食と商品に関する検査・点検・監査と衛生コンサルティングで、お客さまの安心と消費者の皆さまの幸せを支えます

DXビジョン

デジタル技術を積極的に活用し、食と商品の「安心」と新たな価値を社会に届ける
検査・点検・監査・衛生コンサルの専門性とデジタルを掛け合わせ、安心を「支える」から「創る」へ

トップメッセージ ～なぜ今、DXか～

人手不足・ニーズ高度化の中で、安心を守り続けるための変革

背景と決意

人手不足の深刻化やお客様ニーズの高度化など環境が大きく変化する中、培ってきた検査・点検・監査のデータやノウハウを活かし、経営層の強いリーダーシップのもと全社一体でデジタル変革に取り組みます

お客様へ

- ・サービス品質の向上、迅速な対応
- ・検査・点検データを活かした新たな価値の提供
- ・衛生コンサルの知見とデジタルの融合による課題解決支援

働く仲間へ

- ・一人ひとりが能力を発揮できる組織へ進化
- ・デジタルスキルの習得・リスキリングの機会を提供
- ・属人的業務からの解放で、専門性を発揮する働き方へ

今後ともお客様と社会のご期待に応えるべく、社員一丸となって挑戦を続けてまいります

DX推進の3つの基本方針

DXビジョンの実現に向けた3つの柱

1 業務の変革・効率化

属人的・手作業に依存する業務を標準化・デジタル化

ペーパーレス化の推進

Web報告サービスを活用し、受付・報告・点検業務のデジタル化で迅速なサービス提供を実現

2 データの活用と価値創出

検査・点検で培ったデータを最大限活用し新たな価値を創造

暗黙知を形式知に変換する取り組みを推進

お客様との双方向コミュニケーションで品質管理と提案力を向上

3 人材の育成と 挑戦する文化の醸成

デジタル人材の育成・確保と全社員のリテラシー向上を推進

リスクリングや生成AI活用、スキルの可視化とDX関連資格の取得奨励を計画的に実施

また、表彰・好事例共有により挑戦する文化の醸成を継続

検査・点検・監査で培ったデータと衛生コンサルの知見こそが、他社に真似できないDXの源泉です

重点取り組み ～段階的な進め方～

現場の負担軽減から、データ価値化、全体最適化へ

ゴール

検査データ×衛生コンサル
新たな価値創出と向上

短期

AIを活用した業務見直しと人材育成

- ・業務の標準化・プロセス見直し
- ・AI活用・AI-OCR導入による、窓口・受付・報告業務等の事務作業の効率化
- ・デジタル人材育成の計画と実践
- ・良好事例の水平展開・挑戦文化の醸成継続
- ・Web報告サービス、報告機能の追加改修

中期

データ基盤の構築と更なる発展

- ・報告書・点検データのDB化とAI検索を実現、分析可能な基盤の構築
- ・点検員のスケジュール最適化システムの構築
- ・QuickSight・SFAを利用したデータビジュアライゼーション化の促進
- ・Web報告サービスの双方向データ共有を実現

DXの土壌を耕し、人材育成を進め、現状の見直しと改善を重ねる

長期

全体最適と価値創出

- ・レガシーシステムを見直し、最適化を推進
- ・検査結果・データ・提案をデジタルで集約し、検査数値から改善アクションまで一気通貫や新価値・新サービスの創出につなげる

長期の価値提供に向けた基盤を構築し、成長の土台を固める

さらなる成長を実現

継続的に業務を見直しながら優先順位を図り、価値向上に向けて邁進してまいります

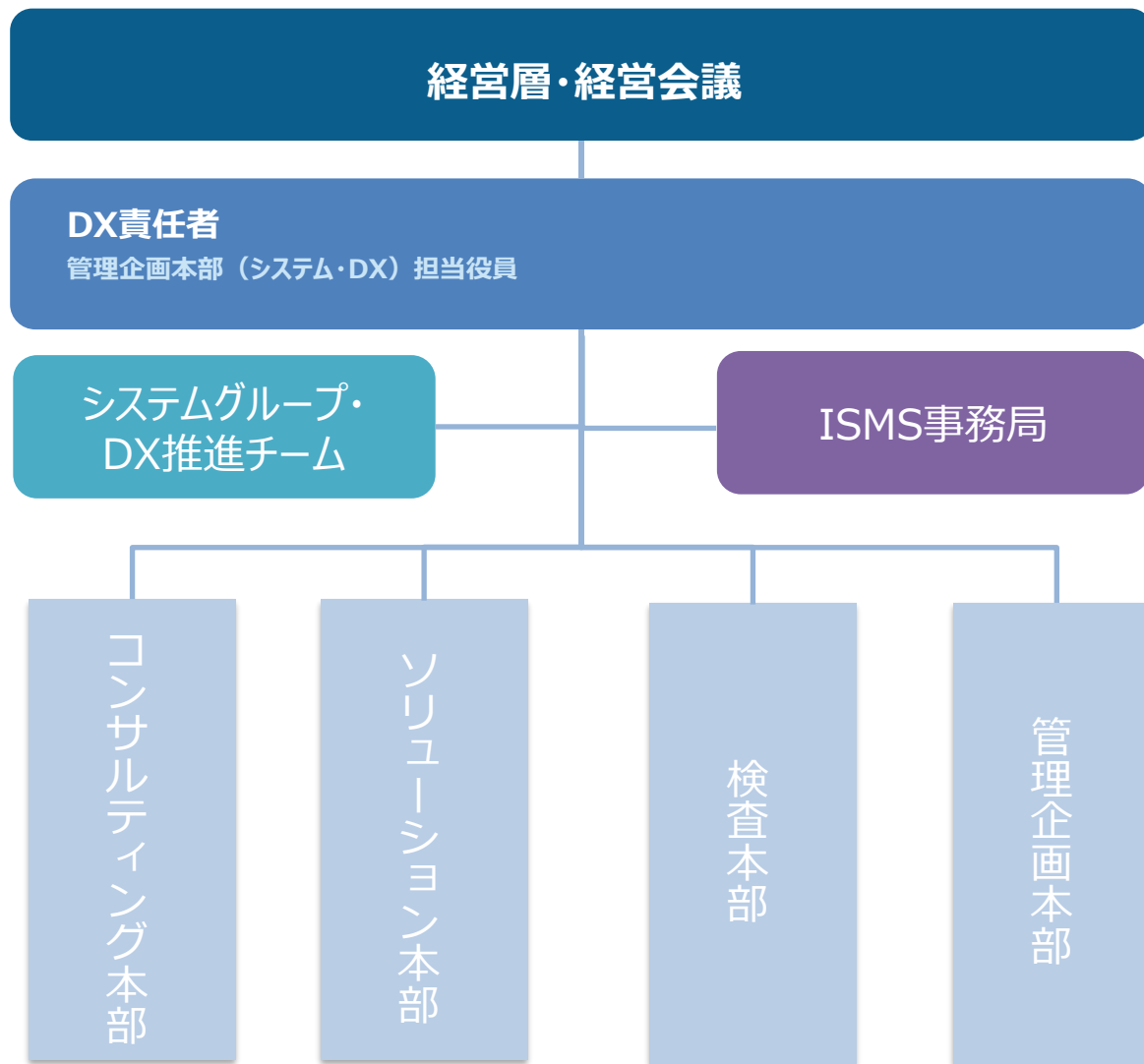
推進体制とガバナンス

経営層主導・全社横断でDXを推進

推進の仕組み

- ・DX責任者（管理企画本部担当役員）が経営会議に参画し、方針決定と資源配分を主導
- ・システムグループ、DX推進チームが組織として確立し、全社横断で施策の企画や現場の企画支援、推進を実施
- ・各部門の課題をヒアリングで集約し、優先順位を設定して段階的に実行・管理
- ・進捗を管理し、PDCAサイクルにより継続的に改善

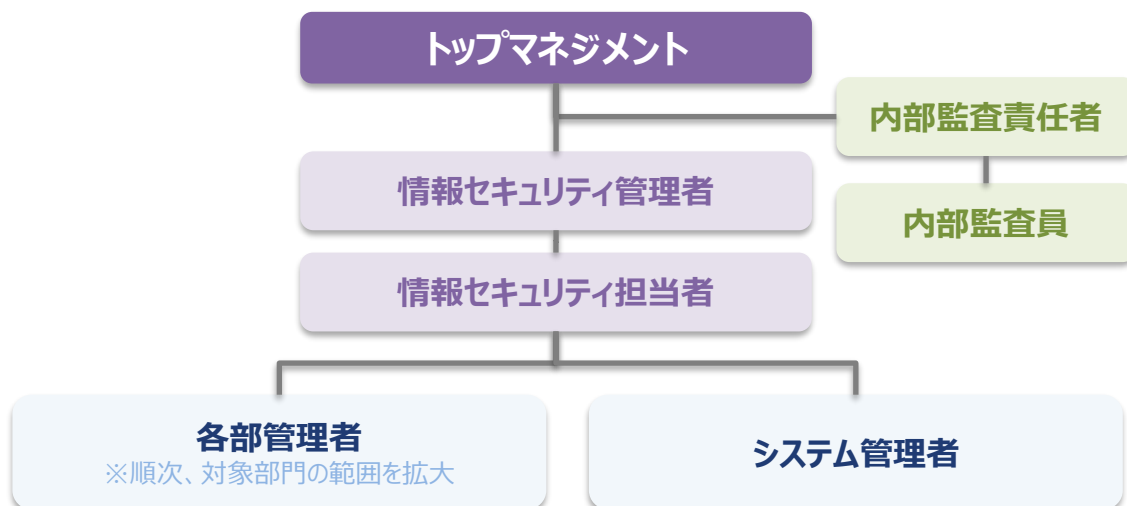
IT/DX投資は経営会議で審査・評価し、適正に管理します



セキュリティ

ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）に基づく情報セキュリティ体制で、DXの安全な推進を支える

ISMS推進体制



セキュリティ対策の柱

情報資産の管理

情報の分類・情報資産管理台帳で管理。重要情報の適切な取扱い・保管

委託先・供給者管理

供給者の選定・契約・年1回の見直し。委託先管理台帳で管理

人的資源のセキュリティ

採用時の誓約書・入社研修。秘密保持の徹底、退職後も有効

機器・記憶媒体管理

PC・モバイル端末の施錠管理、外部媒体の取扱いルール徹底

継続的な研修・教育により、全社員のセキュリティリテラシーを高め、安全で信頼されるDXの土台を築きます

KPI：セキュリティ教育受講率100% / 重大トラブルゼロ / BCP・セキュリティ演習の強化

成果指標（KPI）と進捗管理

現状を可視化し、3年後（2029年度）の目標と進捗を公表・更新します

基準日：2026年9月時点 / 目標：3年後の2029年度までに達成する水準 / 進捗は毎年度見直し・公表

項目	現状（2026年9月時点）	目標（2029年度）
DX成熟度	DX推進指標平均レベル1.05前後	3年後：レベル2.5～3
人材	スキル可視化・アセスメント未整備	2029年度までに全社員対象に実施・育成計画を整備
業務デジタル化	手作業による事務負担が大きい	2029年度までに全社員のうち、社員のAI活用・導入数80%以上
顧客サービス	一方向の報告が中心	Web報告サービス利用率を毎年度向上
データ活用	蓄積データの活用向上が課題	報告書・点検データのDB化とAI検索を整備
投資管理	案件ごとに審査・評価を開始	新規システム開発・DX案件の導入後レビュー実施率100%
セキュリティ	ISMSに基づく管理を継続	セキュリティ教育受講率100%・重大トラブルゼロ

IT/DX企画の進捗を確認し、経営会議へ報告。年度ごとにKPI・施策・投資計画を見直します

DX推進に関する宣言

経営者のコミットメント

**BMLフード・サイエンスは、専門性とデジタル技術を掛け合わせ、
食と商品の安心を支える価値を、未来へつなげます**

検査・点検・監査・衛生コンサルの専門性をデジタルで磨き上げ、
お客さまの「安心」を、ともに創り続ける企業であり続けます

本方針に基づく取組を継続的に実行・評価し、ステークホルダーとの対話を通じて、DX戦略と組織能力を見直していきます

代表取締役社長 小日向 清隆

令和8年10月28日 / 株式会社BMLフード・サイエンス